

# 二 レ ハ セ キ

## 気分はいつも上向き

135度の壁を昇る。中級者・上級者用の「じつかぶり」の壁をスイスイ。山口一司さんがボルダリング始めたのは今年3月。

初心者は腕の力が入り、身体のバランスがとれないともいって、ジムの最高齢の山口さん。あつという間に上

達し、脱力するような腕の使い方で壁のホールドをつかみ足の動きも身のこなしも見事。体幹の強さと身体を支えるバランス感覚は、



ボルダリングに夢中

一朝一夕で鍛えられたものではない。それでも、60歳を過ぎたのはず、60歳を過ぎても現役で仕事を続けてきた生粋のベンキ職人なのだ。特別な営業をしながら、心臓が悪いと言わ

かから、体を使う仕事を避け、中学卒業後は地元の呉服屋で働いていた人が、20歳で大分県から大阪に転出。大型免許を取得していくことから物流会社で資材運搬を任された。これが身体を使う仕事のきっかけとなり、建設業に転

職。店からの依頼が減り、大きな仕事はなくなり、妻にがんが見つかり、何度も入院を繰り返す妻の14年間の闘病生活を支えるために脱サラを決心し、自営業でがむしゃらに働いた。妻子を養うために愚直に働き続けた父を見てきた、当時6歳だった長男は今や51歳。なぜか一部上場企業をリタイアし、社会保険労務士事務所を開業した。障害年金制度を世間に広めたいというのは、父から得た人生の羅針盤だ。その父は「1年後にロッククライミング（岩登り）の動画を撮つて配信したい」と息子に夢を語る。84歳のボルターリング・クライマーの気分は上々だ。

こんにちは題字  
高木翠園



山口一司さん (84)  
枚方市在住

ところが、妻にがんが見つかり、何度も入院を繰り返す妻の14年間の闘病生活を支えるために脱サラを決心し、自営業でがむしゃらに働いた。妻子を養うために愚直に働き続けた父を見てきた、当時6歳だった長男は今や51歳。なぜか一部上場企業をリタイアし、社会保険労務士事務所を開業した。障害年金制度を世間に広めたいというのは、父から得た人生の羅針盤だ。その父は「1年後にロッククライミング（岩登り）の動画を撮つて配信したい」と息子に夢を語る。84歳のボルターリング・クライマーの気分は上々だ。